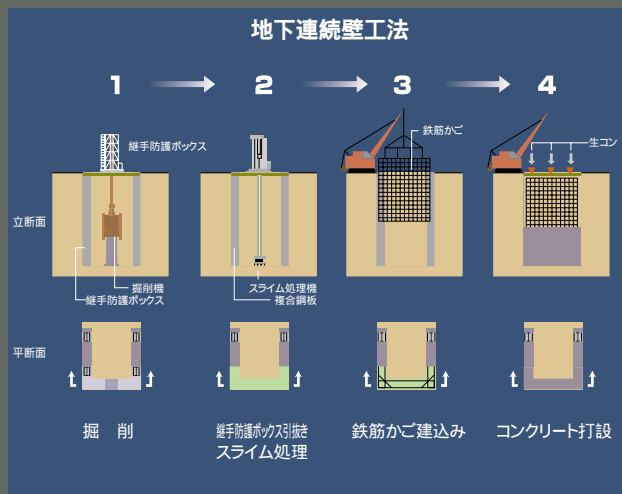


## 地下連続壁立坑本体利用技術

Technology of using cast-in-situ diaphragm wall as shaft body

地下連続壁は、従来立坑の仮設構造物として利用されていたが、継手の止水性向上、及び連続壁と内壁との接合面の一体化等より、立坑本体としての利用技術を1990年に開発した。

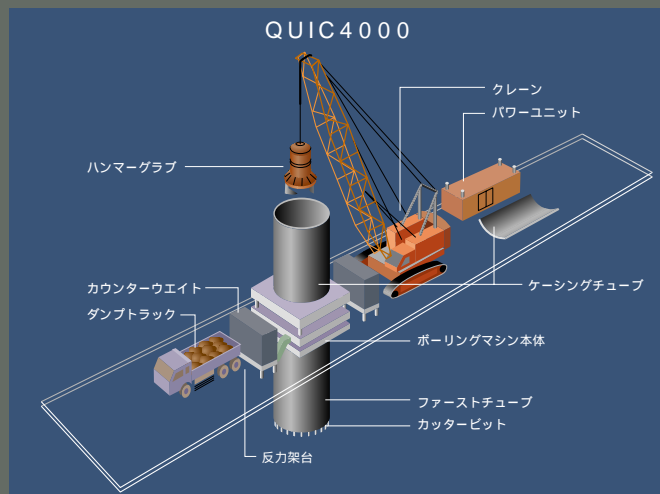
その結果、立坑の壁厚や工程の減少、工事費の低減、工期の短縮を実現している。



## QUIC4000

QUIC4000

1994年に開発導入したQUIC4000は掘削直径4000mmの超大型全回転ボーリングマシンで、基礎杭、換気・資材搬出坑など多様な立坑の施工が可能である。また、岩盤を含む全ての地盤に対して、大深度まで高精度・高速で掘削できる。従来と比べて、建設コストの大幅な低減や工期の短縮が実現した。



## STIC工法

Shield Tunnel Interface with Conduits (STIC) method

STIC「Shield Tunnel Interfaces with Conduits」工法は、シールドとう道とマンホールを連結させシールドとう道の任意の位置からケーブルを分岐する接続技術である。とう道を含めた土木全体の高機能化、既設とう道の有効利用、経済性の向上、工期の短縮などを目的として1986年に開発された。

